

# 研究のテーマと計画

## 1、研究テーマ

「ライフステージを意識した学校でできる支援」

～社会性を育てることに視点をあてて～

## 2 テーマ設定の理由

本校では、平成21年度から2年間、文部科学省より特別支援教育推進事業「自閉症に対応した教育課程の編成等についての実践研究」の委託を受け、「知的障害を主とする特別支援学校における自閉症の特性に応じた教育課程の編成と人間関係の形成を中心とした自立活動の指導に関する研究」というテーマを設定し以下の3つの観点で進めてきた。

- ①一人一人の教育的ニーズに合わせた個別の指導計画の作成と実践
- ②一人一人に合わせた環境と手だての工夫
- ③社会性を意識した自立活動の指導

成果と課題の詳細については、研究報告書に記載しているが、主だったこととしては、

### ①一人一人の教育的ニーズに合わせた個別の指導計画の作成と実践

〈成果〉

- ・P D C Aサイクルを取り入れた個別の指導計画を活用したことで、「授業充実のための話し合い」とおして、一人一人に合わせた本校特有の教育課程の有効性について整理できたこと。

〈課題〉

- ・実態把握で取り入れた初期社会性発達アセスメントについては、対象年齢が低く、小学部高学年や中学部、高等部の児童生徒について内容の検討が必要なこと。

### ②一人一人に合わせた環境と手だての工夫

〈成果〉

- ・場や教材提示の構造化、教師のかかわり方の工夫、一人一人に合わせたスケジュールの作成、コミュニケーション手段の提示等の取り組みをしたことで、自閉症の児童生徒が安心して活動や学習に取り組めるようになり、落ち着いた学校生活が送れるようになったこと。

〈課題〉

- ・一人一人に合わせ、環境をどのように評価し、見直していくか。意図的に行っていた手だてを減らしていくことも考慮していくこと。

### ③社会性を意識した自立活動の指導

〈成果〉

- ・「人間関係の形成を中心とした自立活動」については、「人間関係の形成」のみに着目するのではなく、「社会性を意識した自立活動の指導」ととらえ、自立活動の内容の6つの区分全体で考えることとした。そして、社会性の発達段階に合わせた指導支援を行ったことで、「社会性＝集団」ではなく、まずは教師と1対1の関係から、人とかかわる力の基礎を培う重要性を理解することができた。そこで、「共同注意」という他者を意識した視点の大切さを学んだり、「目と目を合わせる」「5秒まつ」ということを教師が意識して取り組んだりすることで、細かな表情の変化や目や身体の動きに気付くことができるようになり、児童生徒と教師との間にある信頼関係を深めることができた。

〈課題〉

- ・人とのかかわりにおいて、教師から友だちへ、友だちから集団へ、集団から学校以外の社会へと

意識した指導について。また、各教科や教科・領域を合わせた指導の目標と自立活動の目標をどのように関連させていくかの検討が必要なこと。

公開授業・研究報告会で行ったシンポジウムでは「自閉症へのライフステージを意識した学校でできる支援とは～社会性を育てる・環境を整えることに焦点をあてて～」というテーマの下、3名のシンポジストより、社会性についてアセスメントの重要性や、ライフステージ（小学部段階、中学部段階、高等部段階）を意識して、小学部で培った力を、中学部で縦と横に広げ、高等部では卒業後を見据えた指導を心掛けること、児童生徒の様子を知り発達を支援すること、生活や社会生活に広げるという視点で取り組むことなどの大切さについての提言をいただいた。

これらのことから、社会性について、児童生徒の発達段階を把握し、小学部、中学部、高等部段階とライフステージに合わせ、一人一人の教育的ニーズに合わせた指導支援を行うことが必要であると考えるテーマを設定した。

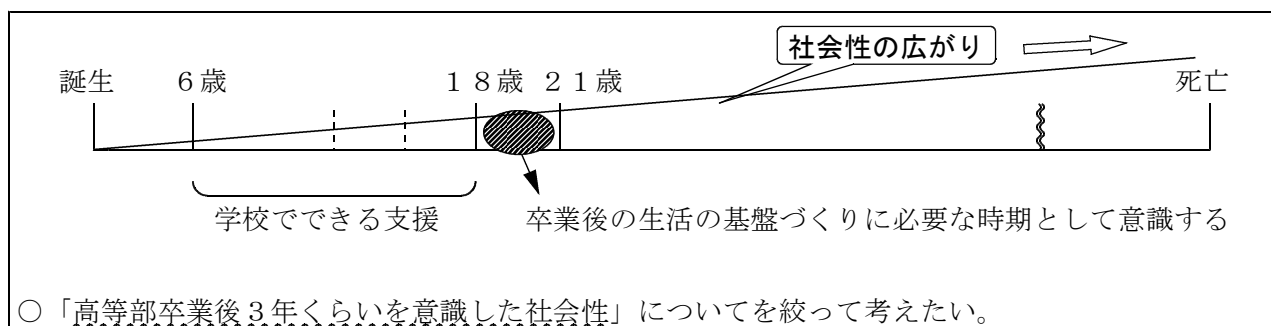
生涯に渡る一人一人のライフステージを意識した支援を考えると幅が広すぎるので、高等部卒業後3年程度を見越し、社会生活を支える基盤づくりが必要なこの時期に必要な社会性について、学校でできることとは何かを考え、一人一人に合わせた社会性の指導方法や内容について事例をとおして明らかにしていきたい<図1>。もちろん、一人一人の子どもたちにとって大切にしたいことは、この時期だけでなく、社会性を更に広げていながら、これから続いてく人生を豊かに、生き生きと、たくましく生きていってほしいということである。「進路先を考慮する」という意味ではなく、どうやって「豊かな生活を目指していけるか」について考えたい。

「社会性」についても幅が広いため、育てるべき視点を「人とかかわる力とコミュニケーション」「ルール・マナーの理解と社会参加」の2点に絞り、研究目標や仮説に迫っていきたい。

今までの取り組みでは、自閉症の特性に応じた支援について研究対象事例児童生徒を中心に進めてきた。自閉症という特有の障害のモデルをとおして検証してきたことで、自閉症の児童生徒に分かりやすい環境や手だては、その他の障害をもつ児童生徒に対しても分かりやすいことや、認知発達や社会性の発達段階などについても、少しずつ明らかになってきたので、自閉症以外の障害をもつ児童生徒へも広げることで、成果として得たことを定着させていきたい。社会性を育てることについては、発達段階、生活年齢、児童生徒の特性などを考慮することが必要である。

授業研究をとおし、検証していきたいと考えるが、PDCAサイクルを取り入れた個別の指導計画の活用や、自立活動に視点をあてるということについては、継続していきたい。

本校の研究では社会性を育てることはまだまだ始まったばかりである。報告書にも記載してあるが、研究事例児童生徒の変容には、著しいものがありうれしい限りである。さらにこの2年間の研究をふまえ、内容や方法を広げ深めるよう取り組んでいきたい。尚、今年度の研究テーマは3年計画の中の1年目としてスタートする。



<図1 ライフステージのとらえ方について>

### 3 研究内容

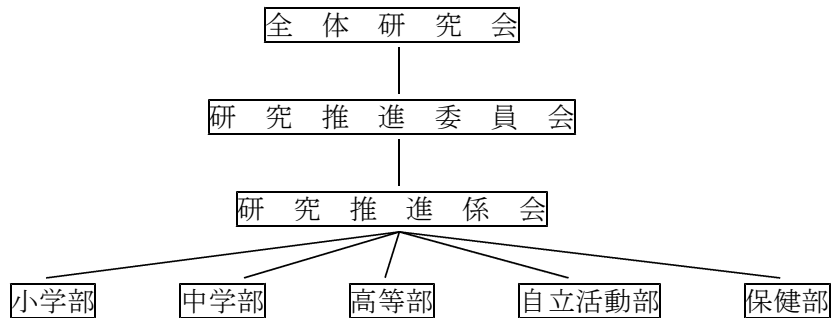
#### (1) 研究目標

児童生徒一人一人の高等部卒業後の生活を意識して、1 2 年間の学校生活における小学部段階、中学部段階、高等部段階の社会性を育てるための指導方法や内容について、実践を通して明らかにする。

#### (2) 研究仮説

児童生徒の実態に応じて、育てたい社会性を「人とかかわる力とコミュニケーション」「ルール、マナーの理解と社会参加」の2点に絞り、発達段階や生活年齢を考慮しながら事例を通して授業を行っていけば、児童生徒の社会性を育てることができ、その指導方法や内容を明らかにすることができるであろう。

### 4 研究の組織



### 5 研究計画

月	日	研究に関わる主な行事	内 容
6	1 3 (月)	研究推進委員会	今年度の研究の方向性の確認
	2 2 (水)	全体研究会	今年度の研究の方向性の確認と決定
	2 9 (水)	ミニ研修	「スケジュール」「コミュニケーション」の「チェックリスト」について
7	2 2 (金)	全体研修会	「行動面に課題を抱える知的障害者の移行・就労継続に必要な支援」
	2 5 (月)	全体研修会	「キャリア教育」について
	2 7 (水)	小学部 部内研修会	「クラス・グループ事例」 「部内研事例」「全体研事例」の検討など
	2 8 (木)	中学部 部内研修会	
8	2 2 (月)	中学部 部内研修会	* 事例をあげて部内の授業研究会を行う。 * 校内講師 (小・中・高)
	2 3 (火)	小学部 部内研修会	
	2 9 (月)	高等部 部内研修会	
9		小学部 部内研究会	* 事例をあげて授業研究会 (小・中・高) を行う。
1 0		中学部 部内研究会	
1 1		高等部 部内研究会	
1 2			
1	2 4 (火)	全体研究会	* 事例をあげて授業研究会 (小・中・高) を行う。

			* 校内講師
2	未定	部内研修会	「クラス・グループ事例」の報告会
3	未定	研究推進委員会 全体研究会（報告会）	実践報告集の作成及び検討 今年度の反省と来年度へ向けて

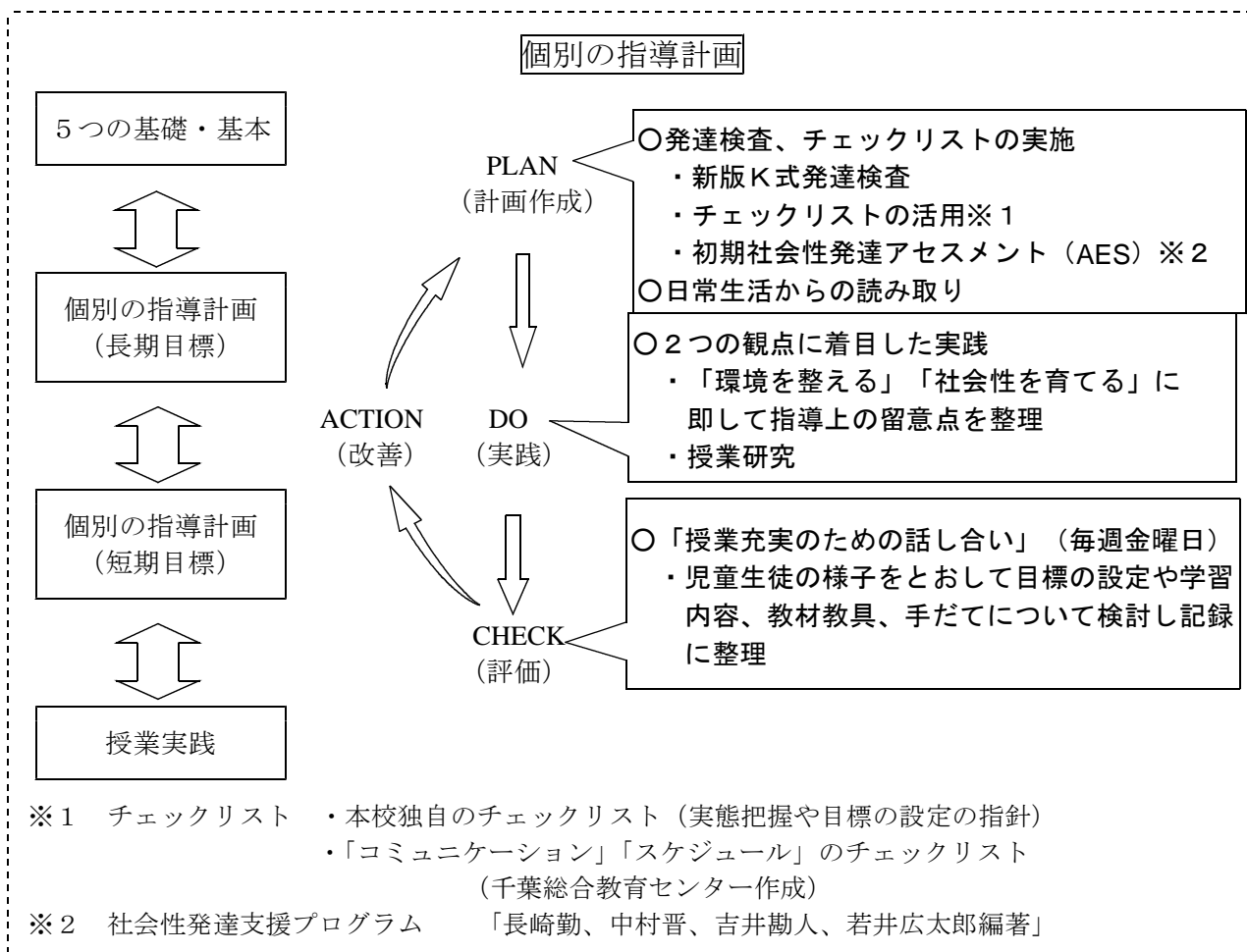
## 6 研究の進め方

### ①一人一人の教育的ニーズに合わせた個別の指導計画の作成と実践

事例児童生徒を選び、PDC Aサイクルの見直しを図り、個別の指導計画の充実をとおして授業実践を深める<図2>。アセスメントについては、3つのチェックリストや初期社会性発達アセスメント（AES）等を選択して取り入れ、客観的な観点にもとづく、よりの確な実態把握に努める。

事例児童生徒については、個別の指導計画から抜粋した資料を新たに作成し、アセスメントから目標設定にいたる根拠を「目標を設定するにあたって」という項目に整理して記載する<図3>。

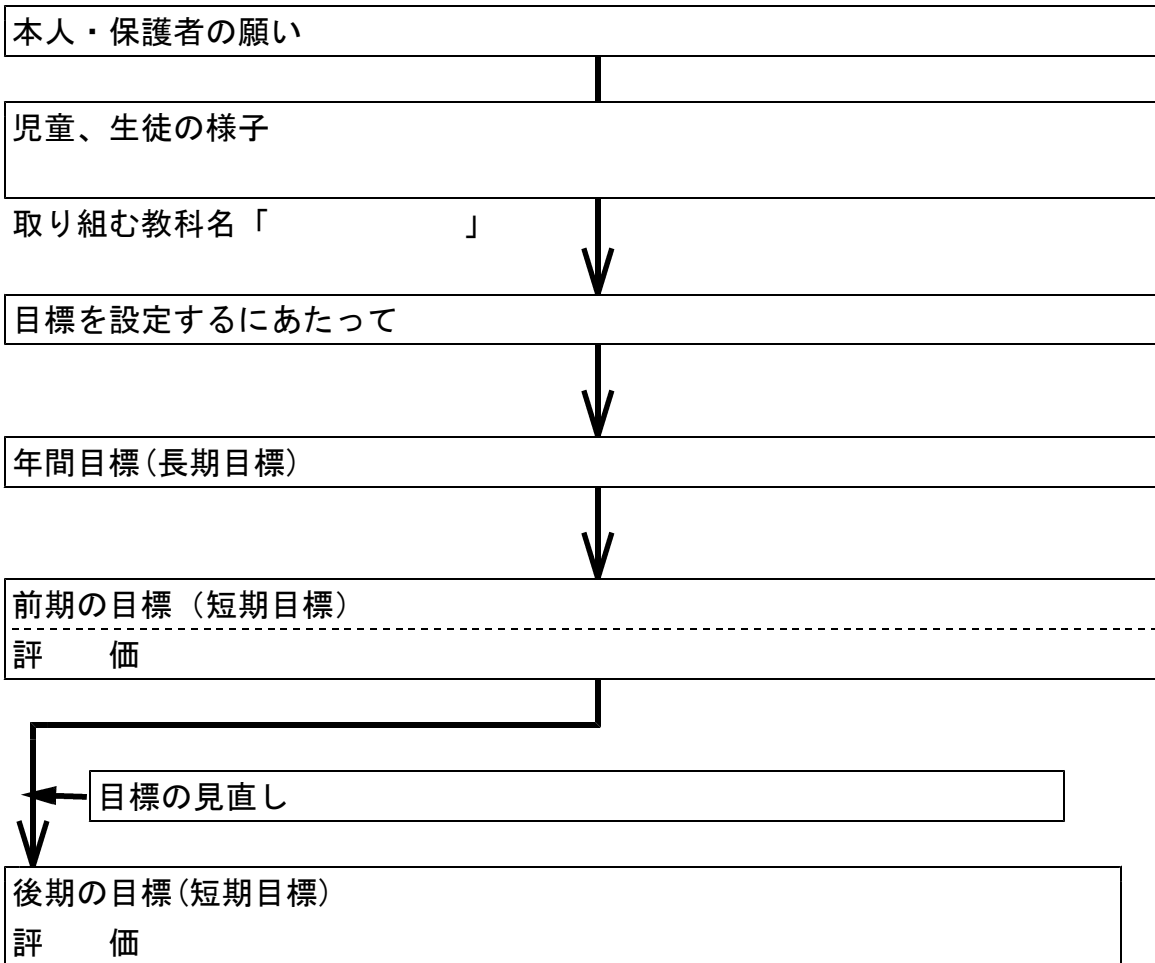
毎時間の授業を振り返って改善を図るため、毎週金曜日に「授業充実のための話し合い」の時間を設定し、児童生徒の様子をとおして目標や学習内容、教材教具、手だてについて検討する。話し合いの様子は児童生徒の変容や授業改善の経過が分かるように記録をとる。



<図2 個別の指導計画にもとづく授業づくり>

事例児童生徒について

〇〇学部〇年〇組 (〇〇班) K・K (教育課程〇)



<図3 事例児童生徒個別の指導計画抜粋資料>

②一人一人に合わせた環境と手だての工夫

「コミュニケーション」<表1>と「スケジュール」<表2>のチェックリストなどを活用し、要求や意思を伝えるためのコミュニケーション手段や、見通しをもって主体的に活動するためのスケジュールボードについて、一人一人の特性に合わせて検討する。理解できる情報の種類や量、形や大きさ、提示する場所などについて、授業研究会や「授業充実のための話し合い」をとおして改善を重ねる。同じように視覚刺激等を整理して学習に集中して取り組むための、机の配置や向き、パーティションの効果的な使い方など、場の構造化についても一人一人の特性を踏まえて指導案に記載していくことで検討を加える<表4>。場や教材の構造化、教師のかかわり方の工夫などを通して、児童生徒が落ち着いた生活をする中で、情動調整を行い、学習を意欲的に受けられるように環境を整え、「気持ちの安定」を図る。<図4>

コミュニケーション(表現)のためのチェックリスト(試案)

学部 年 氏名		記入者 (記入日:月)												
表現手段	直接的な動き	クレールン	実物	カード		ひらがな・カタカナ	漢字	発声	発語	指さし	書字	サイン・身振り	不適切な行動(詳細は備考)	その他
				絵	線画									
表現内容	要求 <small>(色・マッピング)</small>													
	要求内容:物 <small>(手裏・目線・姿勢)</small>													
	要求内容:活動 <small>(ひらがな・カタカナ)</small>													
	援助 <small>(漢字)</small>													
	排泄の予告 <small>(漢字)</small>													
	体調不良 <small>(漢字)</small>													
	拒否 <small>(漢字)</small>													
	注意喚起 <small>(漢字)</small>													
	質問への応答 選択 <small>(漢字)</small>													
	情報の伝達 <small>(漢字)</small>													
	質問への応答 <small>(漢字)</small>													
	自発的な発問 <small>(漢字)</small>													
	情報の伝達 <small>(漢字)</small>													
	あいさつ													

○:よく使う表現 △:たまに使う表現

※ 自身のコミュニケーションの出やすい場面、内容、相手等

〈備考〉

<表1 コミュニケーションのチェックリスト>

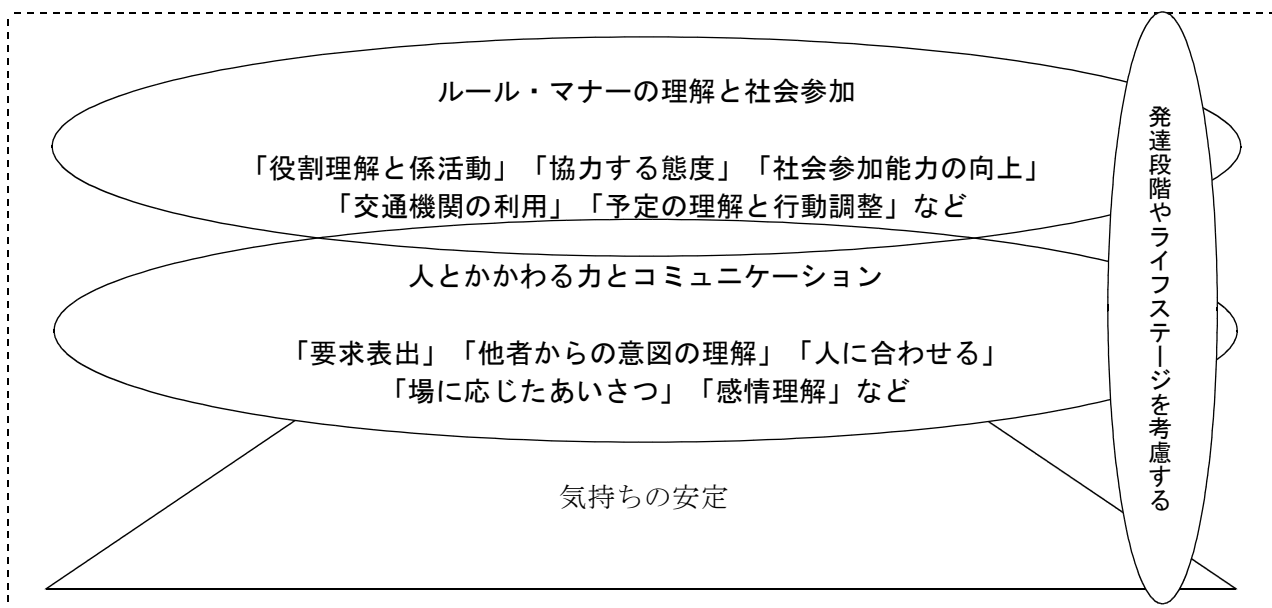
(※資料1) スケジュールを作成するためのチェックリスト(試案)

学部 氏名		年月日		
項目	記入者	年月日	年月日	年月日
種別	記入日			
理解できる情報	実物			
	色(マッピング)			
	手裏(視線・姿勢)			
	絵(カラー・白黒)			
	線画			
	シンボルマーク			
	ひらがな・カタカナ			
	漢字			
	その他( )			
	理解できる量	1つ		
時間	2つ			
	3つ			
	4つ			
	平日			
	1日			
	1週間			
	1ヶ月			
	その他( )			
理解しやすい提示	活動の回数	1回ごとにあるとよい		
		2-3回ごとにあるとよい		
		半日ごとにあるとよい		
		1日の終わりにあるとよい		
		1日以上先でもよい		
動作	手差し			
	面豆(1つずつ)			
	面豆(複数)			
	持ち歩き(ボード)			
	持ち歩き(ノート)			
	その他( )			
記憶	カードを持って移動			
	覚えていられる(どの程度)			
	その他( )			
操作	カード等を取る			
	カード等を裏返す			
	その他( )			
使用するスケジュール	具体的なスケジュールの案(カードの大きさ)			

<表2 スケジュールのチェックリスト>

③社会性を意識した自立活動

社会性を育てる自立活動の指導内容については、教育課程全体をとおして育てていくが、学校生活全体の中で指導していただくだけでは育ちにくい児童生徒が多い。そのために、教科や領域・教科を合わせた指導をとおして、意図的に学習場面を設定したり、意図的に配慮したりして指導を行っていく必要がある。授業内容を考える時に、これまでの研究で重要なキーワードとなった「社会性を育てる」ことを意識して、児童生徒とのやりとりのポイントを指導案に記載していくことで社会性の視点を意識した指導につなげていく<表4>。育てたい社会性については、「人とかかわる力とコミュニケーション」と「ルール・マナーの理解と社会参加」の2点に絞って取り組む<図4>。本校独自のチェックリスト（実態把握や目標の設定の指針）や初期社会性発達アセスメント（AES）などを活用して、一人一人の社会性の発達水準を把握し、学習内容や支援方法について検討する。



<図4 育てたい社会性について>

(2) 本時の指導

時配	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点		備 考
		環 境	社 会 性	
	構造化の内容や教材提示の工夫などについての留意点を記載する。			

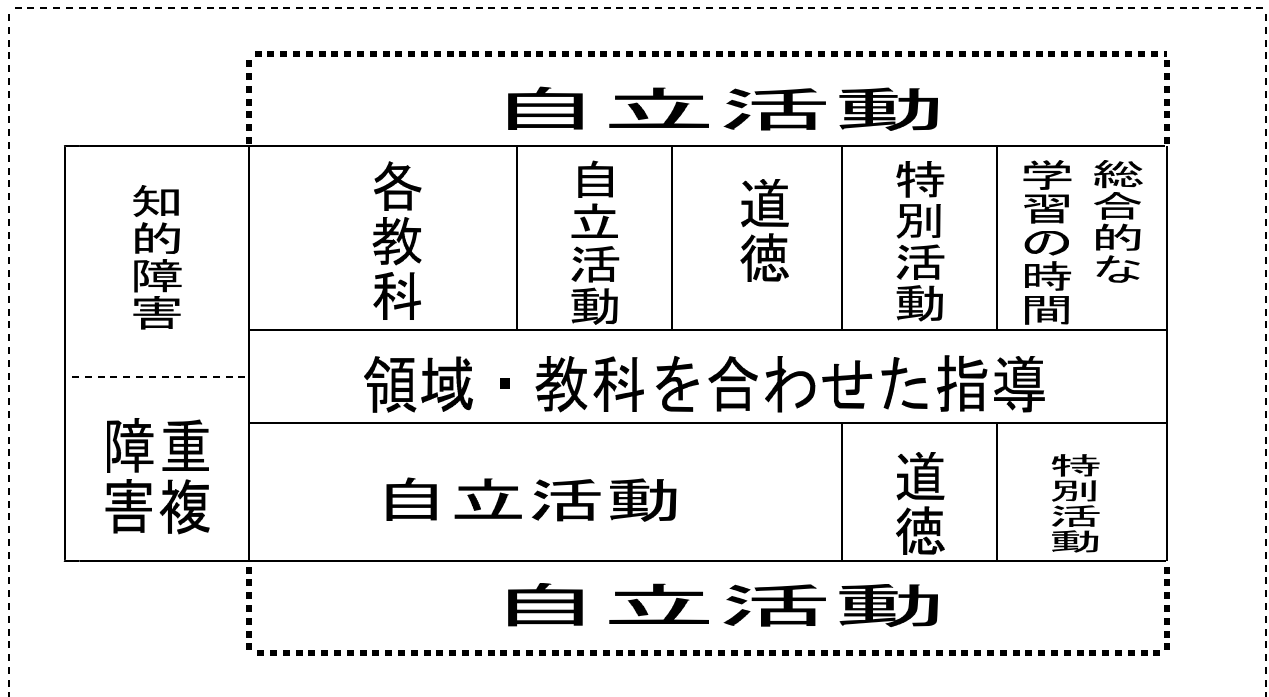
「人とかかわる力とコミュニケーション」もしくは「ルール・マナーの理解と社会参加」についての留意点を記載する。

<表3 指導案の展開の書き方（②③を意識した指導案）>

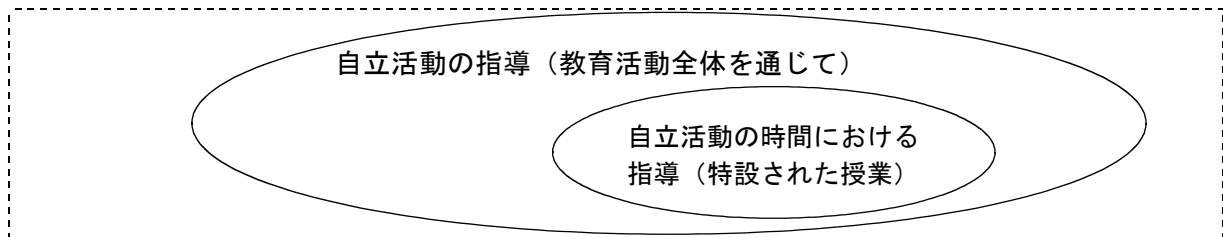
本校の教育課程編成を考えると、自立活動の位置づけについては、<図5>で示したように、各教科、領域等における指導や領域・教科を合わせた指導において、児童生徒の主体的な活動、参加を達成するための基盤となる必須の指導と位置づけることができる。自立活動の指導は、学校教育全体を通じて行うものであり、自立活動の時間における指導はその一部であって、自立活動の時間における指導と各教科等における指導とが密接な関連を保つことが必要であるとされている<図6>。

「社会性を育てる」ことは自立活動の目標であり、各教科や領域・教科を合わせた指導の主となる目標ではない。「社会性を育てる」ことに極端に重きを置いてしまうと、各教科や、領域・教科を合わ

せた指導の目標が達成されない可能性もある。両者はあくまでも密接な関連を保つことが必要であり、自立活動は、児童生徒が各教科等の目標の達成に向かって、自立的主体的に取り組むことを実現するのになくならない支援的な指導であり、各教科指導等の基礎的位置づけであることを意識して取り組みたい。



<図5 本校の教育課程編成の考え方>



<図6 「自立活動の指導」と「自立活動の時間における指導」の関係>